

第1章 序文「何故ウェールズの城郭」なんだろう？

向陽プレスクラブのNEWSに、「何故ウェールズの城郭」なんだろう？と思われる方々も大勢いるだろうと思うので、第2章の本題に入る前に関係する記事を二件紹介します。

1.1 「コンウイ城と日本の姫路城が姉妹城になる」(英国放送BBCのニュース2018年6月17日 筆者翻訳)



写真の著作権：リチャード・ホア ©Richard Hoare

姫路市長、石見 利勝氏がコンウイに来訪し、コンウイ町の町会議員のサム・コットン氏と町役場で特別な式典を催し、MOU (Memorandum of Understanding) に署名する。



写真の著作権：KANDA NORIYOSHI

北ウェールズの城と日本の城が「姉妹城 twinned castles」になる、英国にとってこのような関係を持つのは初めての事である。ユネスコ世界遺産に登録されているコンウイ城と姫路城は2018年7月6日にウェールズのコンウイ町で姉妹城になる覚書式典を開催する。

北ウェールズ観光局によると、姉妹城の関係を築く事によって日本の観光産業と親密な連携を保ち、日本からより多くの観光客を北ウェールズに呼び込める、との事でウェールズ政府の支援もある。

北ウェールズ観光局の局長、ジム・ジョーンズ氏は、「姫路城はウワ〜ット驚くほど素晴らしい！！」と絶賛し、更に「姫路とコンウイの城はほぼ同時期に建設が開始されており、ほぼ年齢が同じなので姉妹関係を持つことにより相乗効果も期待できる。城が姉妹関係を持つことはウェールズでは初めての事だし、多分イギリスでも初めてだと思う」と述べた。

姫路城はジェームス・ボンドの映画「007 は二度死ぬ You Only Live Twice」の中で特殊部隊の訓練場として使われたそうである。

姫路市長御一行は **2019 National Eisteddfod** (アイステズバド：ウェールズで毎年開かれるウェールズ語による詩人と音楽家の集い) に合わせてコンウイに四日間滞在し、コンウイ城を訪問して姉妹城祝賀パレードに参加し、学校を訪問したり交流を深める予定である。両者は教育や文化の面での活動も目指しており、素晴らしい友好関係の始まりであり、大きな機会である。

1.2 「英国ウェールズ ヨーロッパ 100 名城の旅」(城郭ニュース 2019年5月1日の抜粋紹介)

公益財団法人 日本城郭協会では、前述 1.1 項の関連行事として、本年10月初旬にウェールズの7カ所の城を巡る旅行を計画しており参加者を募集している。筆者は日本城郭協会の会員で、評議員でもあり、英国は駐在を含め経験が多いので、訪問する城郭の情報を纏めて KPC の皆様にご紹介するものです。

公益財団法人日本城郭協会は、〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-2-10-302、電話 03-6417-9703

第2章 北ウェールズの城郭

(ウェールズ人はアイルランド人等と同じで先史時代に大陸から移住してきた文字を持たないケルト人の末裔であり、ラテン語のアルファベットを採用しているが綴りや発音は英語とは非常に異なる事を記しておきます)

2.1 北ウェールズの城郭 → 世界遺産「グワイネズ地方のエドワード1世の城郭と市壁」の概要

———イングランド王家プランタジネット朝がケルト系ウェールズ人を破り、イングランドに併合した城郭群———

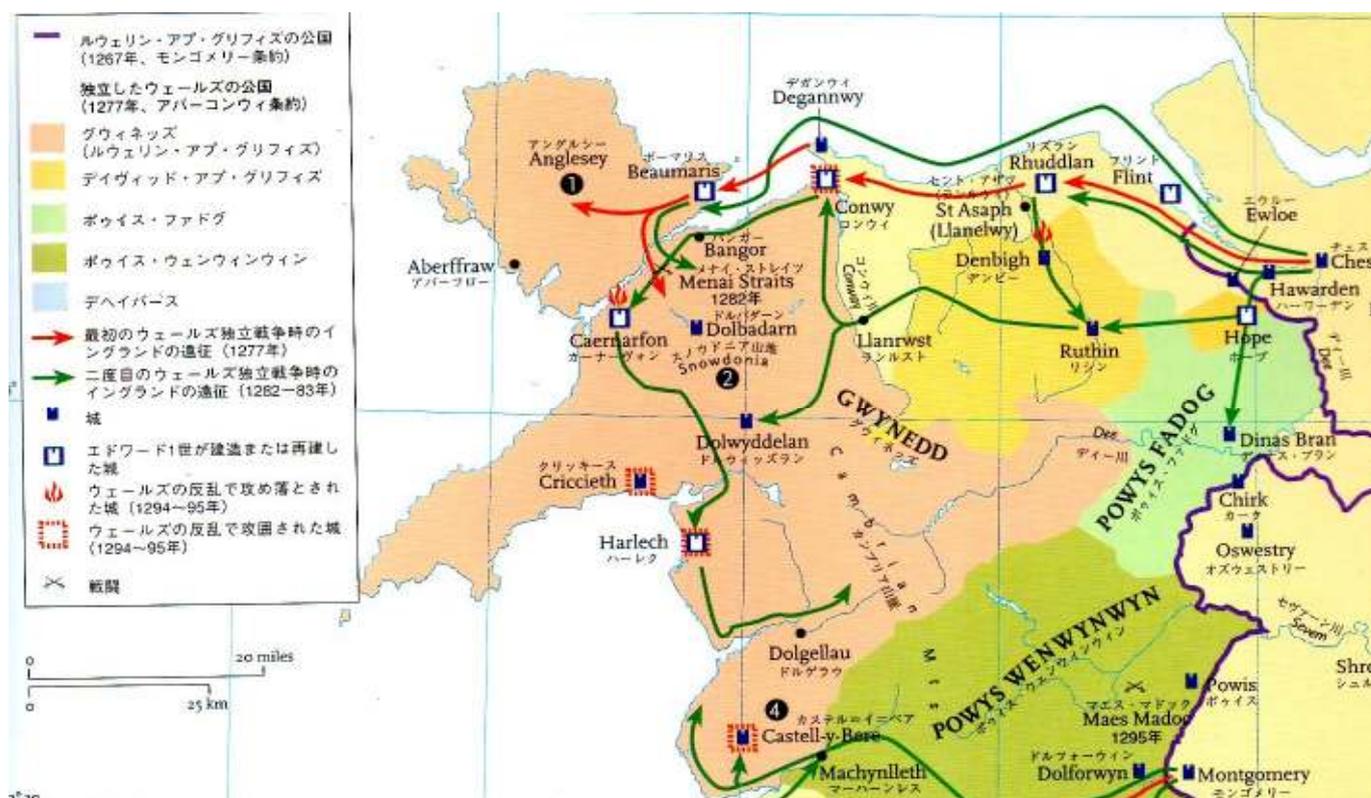
世界遺産「グワイネズ地方のエドワード1世の城郭と市壁」はウェールズ北部のグワイネズ (Gwynedd) 地方にあり、**ボーマリス城** (Beaumaris Castle)、**ハーリック城** (Harlech Castle)、**カーナーヴォンの城と市壁** (Castle and town wall

of Caernarfon)、**コンウイの城と市壁**(Castle and town wall of Conwy)の四か所で構成されている。これらの城郭は、イングランド王**エドワード1世**が率いるイングランド軍が1282年に北ウェールズに侵攻し、グウィネッツの諸王に勝利して植民化して建設したものである。彼は新しい要塞としての城と共に壁で囲った街を建設し、イングランド人の移住者を住ませ、征服した領地を統治させた。この征服・建設・統治の大プロジェクトはイングランドの財政を狂わせるほどだった。

1294年には、**メドック・アプ・ルウェリン**(Madog ap Llywelyn)の指揮の下で反乱がおきた。コンウイ城とハーリック城は沿岸にあり、物資の補給が可能で持ちこたえたが、カーナーヴォン城は建設中で未完状態だったので襲撃された。その後、エドワードは建設作業を早め、更にボーマリス城の建設に取り掛かった。然しながら、エドワードは同時並行でスコットランドでも数々の戦争をしており、王家の財源を使いつくし工事のスピードが鈍化した。そして、カーナーヴォンとボーマリスが完成しないままで1330年までにすべての城郭都市群の建設は中止になった。

その後、15世紀初頭の**グリンドウールの反乱**(Glyndŵr Rising)や、15世紀末の**バラ戦争**(Wars of Roses)など数世紀に亘って内乱が起こった。1485年にプランタジネット朝が崩壊してばら戦争が終結し、**チューダー朝**になると、軍事中心ではなくなったが、17世紀になると英国王**チャールズ1世**の王党派と**オリバー・クロムウエル**の議会派の内戦が始まって、城郭都市は再び活用された。内戦の余波の中で英国議会はコンウイ城とハーリック城の破壊を指示したが、スコットランドの王党派支持者が侵入してくるようになって、カーナーヴォン城とボーマリス城は必要になり無傷のまま残った。

17世紀末までに内乱は終結し城郭は荒廃したが、18世紀末から19世紀初めには芸術家達に人気になり、19世紀後半の**ヴィクトリア女王**の時代にはこれらの城郭へのアクセスが改善されて訪問者の数が増えた。20世紀には英国政府は城と市壁の保護の為に投資を増やし、中世の文化資産を修復した。1986年には四か所の城と市壁を一括して、13世紀に建設された傑出した要塞と軍事建築として**ユネスコ世界文化遺産**として宣言し、現在は**CADW**(ウェールズ語で「ウェールズ文化庁文化遺産保護機構」の意味の略号)によって観光資源として運営されている。



2.2 カーナーヴォンの城と市壁(Castle and town wall of Caernarfon) <名城 100 選にあり>

ウェールズ語での発音は、「カイルナーヴォン」に近い。エドワード1世はイングランド王家の住まいとウェールズの抵抗を封じ込めるための本拠地として築いた。ウェールズ人は紀元前からいる**ケルト人**の末えいで、イギリス中に広がったが、ローマ軍に追われ、その後アングロ人などのゲルマン人、ノルマン人、そしてアングロ・ノルマンのイングランド人に攻撃され続けている。



上下の写真の右端が要塞で左側に壁で囲まれた町があり、イングランド人を住まわせて北ウエールズを統治させた。



城壁を構成する塔が円形や四角でなく、**多角形**であるのが特徴でエドワード 1 世が第 8 次十字軍時代に学んできたと言う



ウエールズ大公 (Prince of Wales)

- ① ウエールズ人の王ルウエリン・アプ・グリフィズ(在位 1246-82)は**ウエールズ大公 (Prince of Wales)** を自ら名乗った。
- ② イングランド王ヘンリー3 世時代にイングランド王の下にウエールズ人の**ルウエリン・アプ・グリフィズ**をウエールズ大公と認めたが、ルウエリンはイングランド王を過少評価した行動に出てヘンリー3 世と息子のエドワード (後の 1 世) を激怒させ、攻

撃を受ける事となった。

- ③ 制圧後ルウエリンは 1282 年に再蜂起したがエドワード 1 世に敗北し処刑（絞首刑・内臓えぐり・四つ裂き）された。エドワード 1 世は Prince of Wales の称号を息子（後のエドワード 2 世）に与える事でイングランドがウエールズを支配する事を明確にした。

<参考> 四頭の馬を四肢につないで引き裂く事を Quartering[四つ裂き]と言うが、日本語では「八つ裂き」が正しいふさわしいでしょうか？

以後 700 年間イングランド王太子（次期国王）が Prince of Wales である。写真は 1958 年に現在のチャールズ皇太子がカーナーヴオン城で女王エリザベス 2 世から称号を与えられる儀式



《参考》カーナーヴオン上の城郭技術の特徴…多角形の塔



多角形の塔はエドワードが最後の十字軍に参加した時にコンスタンチノープルのテオドシウス 2 世の城壁の塔を見て参考にした、との記事があるが、城壁の塔は四角しか見たことがない。

城壁の南西端のイエディクレの要塞には多角形の塔がある。中を歩いたときは円形と思っていた。八角形（Octagonal Tower）はイタリアのカステル・デル・モンテや多くの教会にあるが、多角形の塔は何角形だろうか？ 16 角だろうか？

<参考> 下の 2000 年前の古代ローマ時代の北ウエールズの地図ラテン語 現在のカーナーヴオンにはローマ軍の要塞がある。



2.3 ハーリク城(Harlech Castle)

<ヨーロッパ名城 100 選にあり>

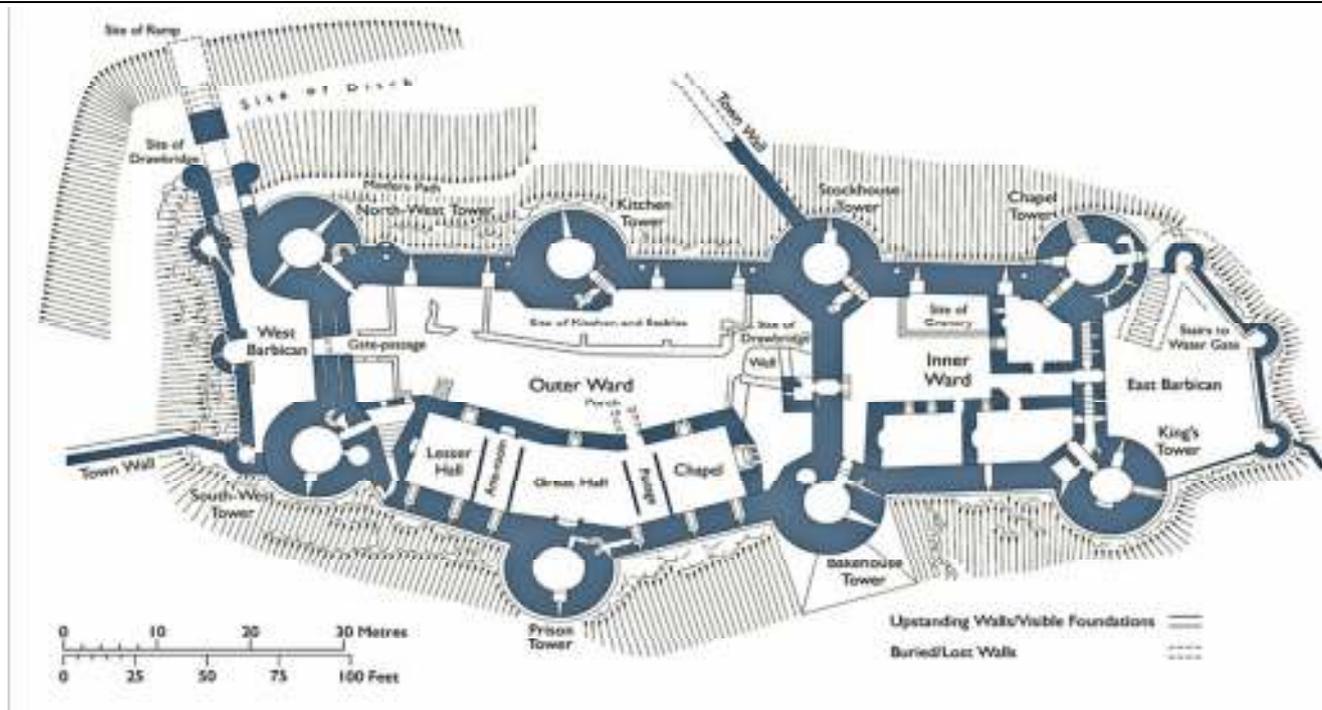
1282 年～1289 年にカーデイガン湾に面した岩山の上にエドワード 1 世によって建設された。1294 年には、メドック・アプ・ルウエリン (Madog ap Llywelyn) の指揮の下で反乱がおきたが、ハーリク城は沿岸に近く、物資の補給が可能で持ちこたえた。しかし、ヘンリー 4 世の時代の 1404 年に起きたオワイン・グリンドゥール ([Owain Glyndŵr](#)) の反乱で落城し

1409年にイングランド軍に再征服されるまでグリンドゥール軍の本陣となった。15世紀のバラ戦争では1468年にヨーク家軍が奪還するまでの7年間はランカスター家軍に占領されていた。また、17世紀のピューリタン革命戦争（English Civil War）ではチャールズ1世の国王軍が占拠したが、1647年にクロムウェル率いる議会派の攻撃に降伏し国王軍の最後の要塞となった。〈参考〉 ここカーデイガン地方の軍の指揮官がクリミア戦争で軍服の上に羽織った上着をカーデガンと呼んだ



2.4 コンウイの城と市壁(Castle and town wall of Conwy)

1283-1289年のウェールズ征服戦争の一環として、イングランド王エドワード1世が建設した市壁で囲まれた街とこれを防衛しつつ更なる侵攻の拠点とする要塞である。続く数百年の間数回の戦争で重要な役割を果たしてきた。1294-95年の冬、メドック・アップ・ルウェリン（Madog ap Llywelyn）の指揮の下で反乱が起きてウェールズ兵に包囲されたがこれに耐えた。ハーリック城と同様に1404年に起きたオワイン・グリンドゥール（Owain Glyndŵr）の反乱で落城した。1642年のピューリタン革命ではチャールズ1世の国王軍が占拠したが1646年にクロムウェル率いる議会派軍に敗北した。戦争の余波として議会派はコンウェイ城が更なる反乱軍の拠点に利用されない様に破壊した。最終的には、1665年に議会派軍は城郭に残っていた鉄や鉛を剥がして売り飛ばした。





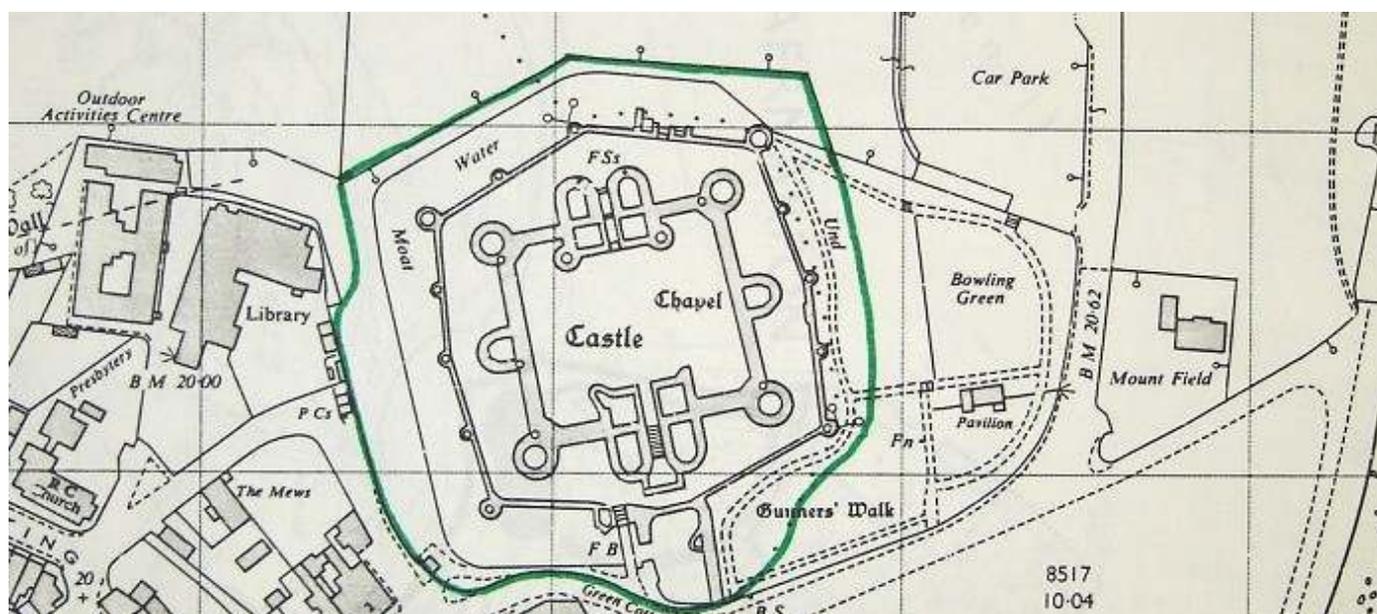
2.5 ポーマリス城 (Beaumaris Castle)

ウェールズ本土からはメナン海峡で隔たった**アングレーシー島**で古代からドルイド教徒が住みついてきたが、ローマ軍に破壊され、その後もヴァイキング、サクソン人、ノルマン人と次々に侵略された。城があるところは、元々はヴァイキングの港だった。

城の北約1マイルの Llanfaes という小さな集落がアングロ・サクソンに占領され、その後ウェールズ人が奪還して拡大していたので、このままではウェールズ人が反乱を起こす可能性があった。

イングランド王エドワード1世がウェールズ征服を進めている1295年に、北ウェールズ周辺にカーナーヴォン、ハーリック、コンウェイなど一連の城塞群の一つとしてポーマリス城の建設を計画し町の開発が始まった。重要な事は本土と島の間メナン海峡のコントロールであり湿地であっても海峡近くの平地が必要条件だった。当時のイングランドの貴族も建設技術者もノルマン・フレンチ人で、フランス語を話していたので、フランス語で *beaux marais* 即ち「美しい湿地」と呼んだことから、ポーマリス城と名付けられた。

<参考> 14～15世紀の百年戦争は、アングロ・ノルマン人のイギリス王と、フランス王の争いで両者の指揮官はフランス語を話していたが、イギリス側は長い間フランスと戦っているうちにイギリスの兵士の言葉・・・古英語を話すようになり17世紀にシェークスピアが英語で戯曲を書いて大評判になり現在の英語に発展した。

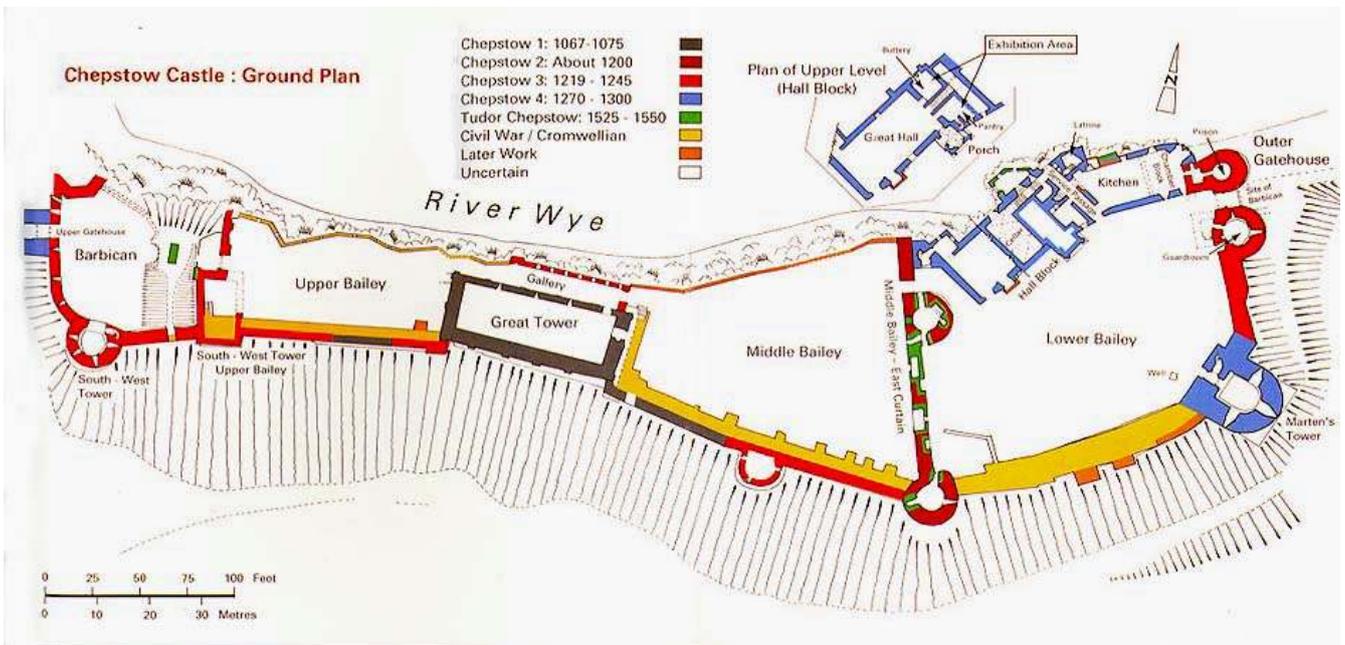
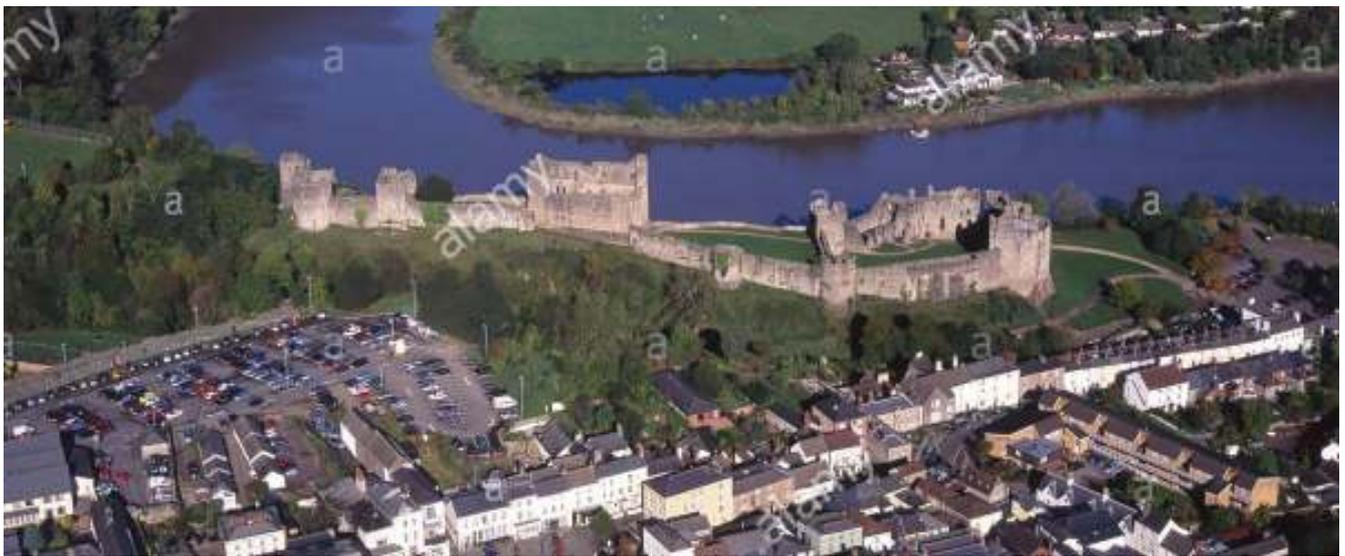




第3章 ウェールズ南東部の城郭

——11世紀にイングランドを征服したイングランド王家ノルマン朝がウェールズに侵攻して領土拡大を狙った城郭——

3.1 チェプストウ城 Chepstow Castle はウェールズの**モンマス Monmouth** 州を流れる**ワイ川 River Wye** 沿いの崖の上にあり、ローマ時代以降(AD400年～)の**イギリスで最も古い現存する城郭**である。**ノルマン軍**が**1066年**にイングランドを征服した翌年の**1067年**にイングランドから更に西のウェールズに領地を拡大する目的でウェールズとの国境の**ウェールズ辺境地**に沿って建設した一連の城郭群の最南端の城であり、ノルマン貴族のウイリアム・フィッツオズバーンが建設したものである。12世紀にこの城郭は、当時ウェールズにいくつかあった独立王国の内でも南東部旧・州のグエント Gwent を征服するにあたり活用された。そしてアングロ・ノルマンの最も強力な二人の貴族のウイリアム・マーシャルとリチャード デ・クレアーに所有された。しかし、16世紀までにはチェプストウ城の軍事上の重要性は衰え城郭の建造物は貴族の住居などに転用された。17世紀の(日本では)「**清教徒革命**」と呼ばれる **English Civil War** の時には軍が駐留したが 1700年代までには城は朽ち果てていた。後年の観光ブームで城は人気の観光スポットになった。



3.2 カーデフ城

ウエールズの首都カーデフ市の中心部に建てられた中世の城で、コフオ城と同様のゴシック・リヴァイヴァル建築様式である。オリジナルはモット・アンド・ベイリー（Motte-and-bailey）様式の城で 3 世紀のローマ軍の駐屯地の中の要塞の上に 11

世紀にフランスから侵略してきたノルマン人が建設したものである。ノルマンの征服王ウイリアム自身か部下の [Robert Fitzhamon](#) が監督指揮し、中世の街カーデイフの征服拠点としたと言われている。

12 世紀には土盛りの上に石造りの円形の塔と重要な城壁を供えた城郭に作り替えている。その後の工事は 13 世紀後半にイングランド西端の 6 代グロスター伯が行ったものである。

カーデイフ城はその後イングランドから侵略してきたアングロ・ノルマン軍とウエールズ人の戦いに巻き込まれ、12 世紀には数回襲撃されている。また、1404 年のウエールズ人の **グリンドウールの反乱** (Glyndŵr Rising) でも襲撃された。

17 世紀の (日本では) 「**清教徒革命**」と呼ばれる **English Civil War** の時には当初は議会派軍に占領されたが 1645 年王党派支持者に奪還された。



3.3. コツォ城

コツォ城（Castell Coch=Red Castle）は19世紀に南ウエールズの [Tongwynlais](#) 村（カーディフ中心部から北西に10.6km）に建設されたゴシック・リヴァイヴァル建築様式の城である。ゴシック・リヴァイヴァル建築様式は18世紀後半から19世紀にかけてイギリスで興ったゴシック建築の復興運動による様式で英国国会議事堂が代表的な例である。ネオ・ゴシック様式とも呼ばれる。

最初の城は1081年以降にフランスから侵略してきたノルマン人によって新たに征服したカーディフの街とそこから内陸に侵攻する為の街道の防御の為に建設された。その後は放置されていたが、13世紀に新しく征服した領地を護る為に城を強化する事になり、最初の城の塔の土盛りの基礎部（motte）を再利用して石造りの城郭として拡張された。しかし、1314年にウエールズ人反乱が起きて城は破壊された。

その後約450年後にイギリスの第3代ビュート伯爵ジョン・ステュアート（John Stuart, 3rd Earl of Bute）が結婚を通して広大な領地を獲得した。今では結婚式などに使われている。ウエールズの首都に泊まるので観光協会のお勧めかな

